

「二倍ではない三倍働け」と力強く書いてあった。無論、本で読み見たため、その言葉だけ筆圧が強かったわけではない。ただ自分の目にはあたかも達筆に書かれているようだと感じたのだ。

私は東京大学研修の中心的な企画である企業大学訪問で、順天堂大学の天野教授にお会いした。天皇の執刀をなさった心臓外科医の

ため、人として漠然と格上の方だと思っていた。また、自分の夢として医師を志しているため、有名な医師に直接お話を聞けることに高揚し、緊張していた。いよいよ順天堂大学に着き、ICUの隣の会議室での談話だった。まず、天野教授からの手土産をいただいた。ペンと外人と日本人の衛生に対する考え方の違いのお話だ。始め、私達は「外人と日本人の違いってなんだと思う？」と聞かれた。私達はそれぞれ全く考えたことのないことであり、天野教授のお考えは衛生状況の悪い事に抵抗がないかあるかだった。始まりから、私はただ者ではないと感じ取った。想像では質問への答えを待っているのかと思っていた。萎縮していた私達にとってとてもありがたかった。

また、天野教授との談話では色々な名言のようなものが受け取れた。特に印象的だったものは三つほどある。一つ目は冒頭でも出てきたが、「二倍ではない三倍働け」である。

執刀件数が文字通り普通の医師よりも三倍程ある天野教授がおっしゃるため、とても重みがあり、心に響いた。また、何にも応用が利き、人生のアドバイスでもあった。二つ目としては、「病を癒すは小医、人を癒すは中医、国を癒すは大医。」である。皆、疑問に思っていたことがあり、それは国を癒すということである。国を癒すとは新しい治療法などを見つけることだそう。なるほどと納得した。大医になれるようにと天野教授はにこやかに言った。三つ目は「最大公約数的な考え」である。これからの医師は沢山の人の要求を充たすようにならなければならないとおっしゃっていた。インフォームド・コンセントや延命治療を施すかどうかなど、病を治すことだけでなく患者と家族の心の三つを最大限満足させる治療が必要である、とも。私は医学部を志望しており、将来医師になろうと考えている。重要なこれからの医師の要素をいただいたため、とても有意義な時間だったと感じている。

さらに、天野教授は自分で大学受験を行っている自分に後悔を感じているとおっしゃっていた。ギャンブルやゲームが大好きで、誘惑に負けていた、とも。しかし、ゲームやギャンブルが一概に悪いとも言えないと興味深い意見を持っていらした。理由としては、

医師、特に外科医にはシミュレーションや準備が大事であるが、シミュレーションにはどこが山場か、なんの関係性を臓器が持っているかが大事だ。これはまるでゲームの攻略に近い。敵がどのような能力を持っているか、自分のレベルはどれほどか、ここを叩けばすべてが上手くいくなどの考え方である。自分は親にゲームは脳の後頭葉ばかりを刺激して、前頭葉の働きを阻害するので良くなく、時間を奪っていくものだと小さい頃から言われていたため、驚きの発言だった。しかし、考えてみればなんの証拠もないのに鵜呑みにしていた自分に気がついた。確かに悪い面あるかもしれないものでも、もう一度論理的に考えてみることはとても大事な能力だ。しかし、それを平然と考えている天野教授に驚いた。また、自分の考え方がまだまだ固い事を気付かされた。

次に、失敗に動じない、重圧に負けないコツがあるのかと尋ねた。天野教授は一言で「いっぱいやることだ」と言い放った。単純明快だがとても難しいことでもある。自分は今、高校生活で勉強も部活も全く時間が足りない。しかし、経験を重ねることが大事である。その為、全く言われていないが時間の使い方を気をつけなさいと言われていたようだった。また、入念な準備も大切であるとおっしゃっていた。予想外と思われることも全てをシミュレーションし、もう何があっても大丈夫だという状態にすることである。これについても、同じく、時間の使い方を気をつけようとおもった。

また、天野教授はこれからの医師にしておいた方がよいことを伝授してくださった。それは二つある。一つ目は英語である。無論、英語のできない医師もいるが、最新の知識を得ることが難しくなる。なぜなら、最新の

知識は英語で書かれているからだそうだ。やはり日本よりもアメリカなどの方が進んでいる。これは私もそうだと考えていた。二つ目はパソコンである。何を書くにもパソコンのキーボードで行い、情報収集もパソコンである。何より、医師の学会では必ずパワーポイントによる発表が必要不可欠だそうだ。私はパソコンに家では全く触らない。これから医師になろうとしていると考えるととても危機的状況である。パソコンについては全く考えていなかった。アドバイスはとてもありがたかった。さらに、こんな医師にはなつて欲しくないとも語っていた。それは患者の顔も見ずに、パソコンやカルテをずっと見ている医師にである。言い換えるとコミュニケーション力のない医師である。さらに、コミュニケーション力を鍛えるためにも高校生活では勉強や部活以外にも、今しかできないことをやるべきだとおっしゃっていた。しかし、時間は有限である。先ほども書いたが時間の使い方が鍵を握っている。

最後に、天野教授を観察していて思ったが、終始私達を優先して考えていただき、それでも場の進行はとぎらさなかった。私達の方に進行役がいるにも関わらず、あたかも天野教授が司会をしているようだった。私はこんなところにも医師の素質が隠されているのではないかと考えている。相手を尊重しつつも、ゴールへは必ず導くということである。平たく言うとリーダーシップである。先ほど学会と言ったが、医師は会議をすることが多いと聞く。私はそんな時に場を壊さずに自分の意見を出すことも大事だと推測した。

医師について様々な必要な要素をさ教えていただいたが、私は全てが学生生活で学べるものだと考えている。例えば、リーダーシップやコミュニケーション力などである。また、それを達成させるための時間の使い方が大事ともわかった。つまり、この高校三年間の生活にどれだけ人生的な経験や勉強をできるかにかかっていると私は学んだ。

今回の訪問はとても有意義なものになったと思う。事前にアポイントメントを取ることから始まり、質問を考えることも、今思えばコミュニケーション力の向上につながっていた。また、色々な知識を得ることができた。多忙中、お付き合いをいただいた天野教授に感謝して、これからの高校生活を過ごすうえで役立てていきたいと思う。また、私は人の二倍ではなく、三倍の努力を重ねていきたい。